

# 経営改善計画書(令和5年度～令和7年度)

団体名	有限会社かみんぐさじ
-----	------------

様式2

現状と課題	新型コロナウイルスによる感染拡大もおさまり、地域間の交流が盛んになってきた昨今であるが、書道用紙の需要は以前として徐々に減少傾向にある。また、紙漉き職人も年々高齢化が進んでおり、後継者育成が重大な課題となっている。それに加え、世界情勢・世界経済の悪化により、原油価格の高騰や和紙原料不足等、因州和紙をとりまく状況は悪化する一方である。しかし地域の重要な文化である因州和紙を未来へ繋ぐため、若年層に向けた新商品開発や、アーティストの和紙使用のサポート、シニア向けのワークショップの開催、海外へ向けた情報発信等々、まだまだ挑戦できることがあると感じている。職員一同、一丸となり取り組む。
経営方針 (令和7年度目標)	効率よく和紙生産を進め、国内外に目を向けて情報発信していくことで、新規顧客開拓と売上アップにつなげていきたい。また、地域のシニア層や、子どもたちに楽しんでもらえるよう、魅力ある体験メニューを開発することで、地域の皆様にとって親しみある施設となれるように取り組む。

視点	7年度目標 (期間内の最終目標)	年度	実行計画		実績		分析、評価コメント (経営改善効果)	市担当課コメント	
			取組内容	目標値	取組状況	実績値			
経営改革 (財務面での長期見直し)	新商品開発・商品化実現(一品)	5年度	ホームページ(ECサイト)リニューアル		R5.10月 サイトリニューアル	1日平均訪問者数4人→9人	スマホ対応サイトになったことで、サイト訪問者数が増えた		
			インバウンド等対応に向けた職員研修の受講(実施)	年1回	R6.2月 鳥取県「工芸品の欧州市場販路開拓セミナー」参加	年1回	インバウンド対応ではなかったが、欧州市場での販路開拓に繋がった		
			若年層をターゲットにした新商品開発	年1種	「和紙自由帳まめほん」、「手すき和紙のファイル」	年2種	京都「恵文社」鳥取フェア「和紙自由帳まめほん」50冊発売		
		6年度	海外へ向けた情報発信を開始	年1回					
			シニア向けワークショップ、イベントの開催	年1回					
			若年層をターゲットにした新商品開発	年1種					
		7年度	インバウンド向けに紙すき体験に親しんでもらえるプランを作る						
			シニア向けワークショップ、イベントの開催	年1回					
			若年層をターゲットにした新商品開発	年1種					
組織改革 (組織見直し、人材育成)	自社製品のブランド化(一件)	5年度	後継者育成支援事業の活用		鳥取県ふるさと産業後継者育成支援事業を申請	研修生1名受け入れ	体調不良によりお休みされた期間もあったが、研修継続中	若い後継者の育成による技術の継承や様々な団体とのコラボレーションにより、新たな価値観や取り組み、ブランド化へつながることを期待する。	
			移住・定住の取り組みに参加する	年1回	R5.12月 鳥取県来訪者カフェin東京「Merry × 和紙」和紙提供	年1回	鳥取移住コーディネーターとの繋がりが増えた。今後も継続したい		
			地域団体・施設との連携		R6.1月 さじアストロパーク合同イベント「和紙の時計作り」	年1回	佐治支所、さじアストロパークとの連携で実現できたので継続したい		
		6年度	自社製品のブランド化(佐治みつまた紙等)						
			芸術系専門学校・大学へコンタクトをとる	年1回					
			国内外からの移住希望者へアピールする	年1回					
		7年度	芸術系専門学校・大学へコンタクトをとる	年1回					
			国内外からの移住希望者へアピールする	年1回					
			地域団体・施設との連携						
公益増進 (顧客サービスの向上、社会貢献)	出張体験メニューの開発(一件)	5年度	学校・地域団体の和紙使用をサポート	随時	佐治小学校や、佐治人権福祉センター等で和紙を使用	年5回	日常的に使用していただけるよう、仕組みを作っていくたい	和紙への理解や価値観を高めるとともに、地域振興につながる重要な取り組みであるため、継続して取り組んでいきたい。	
			展示・販売スペースのリニューアル案検討	随時	リニューアル検討会議 開催	年2回	和紙が引き立つようなレイアウト、日々の掃除がしやすい配置へ		
			地域団体・施設との連携		さじ保育園 卒園証書作り	年1回	地元の特産品である「和紙」について理解を深めてもらった		
		6年度	展示・販売スペースのリニューアル案実施						
			夏休み 子ども向けイベント開催	年1回					
			アーティストとの交流・サポート	随時					
		7年度	地域内共助交通を利用したシニア向けイベント開催	年1回					
			出張体験メニューの開発						
			アーティストとの交流・サポート	随時					